

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様が寂しさや不安から解放され、毎日を楽しみ暮らして頂くことを目指します。」の理念を作り上げ、毎日の申し送りの際に唱和し確認している。	法人全体で統一した理念を掲げケアで実践している。利用者・家族には利用契約時に説明し理解を頂いている。2～3ヶ月に1回開いている管理者会議で法人全体理念の見直しを検討予定で更に利用者本位のサービスの向上を目指している。新人職員には、3ヶ月の研修・オリエンテーションの中で説明し理念に沿ったケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の班に入り、回覧を回したり、川掃除にも参加している。また、地区の行事のお花見・敬老会にも参加している。高丘小学校の音楽会・運動会、中野小学校4年生主催のふれあいコンサートに招待され交流している。豊田中学校1年生が福祉体験に来ている。地域の大交流会に参加・交流している。	地域の行事などに参加し交流している。職員が5つの小学校の認知症サポーター養成講座に関わり小学生サポーターが大勢誕生し、参加した小学生からは家族に置き換えた感想などを沢山いただいたという。日頃から小学校や中学校との交流が行われている。ホーム行事にはフラダンスなどボランティアの来訪もあり利用者は楽しみにしている。ホームで開いているオレンジカフェも地域の参加者が増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中野市の小・中学校や各地域に出向き、認知症サポーター養成講座の開催に協力している。平成28年11月より毎月第4金曜日に認知症の人やその家族が地域住民、専門職と交流するオレンジカフェを開催している。中野市の地域について語り合える、考える場であるかなつちよ隊に3人が所属している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、区長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員などで構成され2ヶ月に1回開催している。利用者の状況報告、行事・活動・予定報告、事故報告等を行い質疑応答をしている。平成28年11月より開始した「オレンジカフェ」の活動内容の説明を家族、区長、民生委員の方々にいき地域への働き掛けもお願いした。本年度は6/12、7/17、9/27、11/15、来年1・3月に開催予定。	家族代表、区長、民生委員、市高齢者支援課職員、ホーム関係者等の参加により年6回開かれている。利用者・ホームの状況、経過報告、職員の研修報告、事故・身体拘束・職員の異動等の報告を行い出席者から意見を頂いている。この秋の台風19号の際、地区の水害も話題になり、市・区との連携も今後の検討課題として確認ができ、良い機会になったという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者や地域包括支援センターと連絡を取り合い、相談・報告等している。介護認定調査員には、本人の様子を伝えている。毎月第3火曜日の中野市事例検討会、介護支援専門連絡会に出席し、情報を得て介護に活かしている。中野市介護相談員2名が3ヶ月に1度来られ、入居者の相談を聞いている。	介護認定の更新時には代行申請もやっている。調査員来訪時には同席する家族の方もいるが、職員も立会い日頃の様子などの情報提供をしている。市高齢者支援課が発行している「キャラバン・メイト便り」でホーム職員が係わっている出前講座「認知症サポーター養成講座」、ホーム内で開かれている「オレンジカフェ」の紹介がされ、窓口も市が担当しており、情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年内部研修で学んでいる。「身体拘束とその他の行動制限廃止に関する指針」があり、家族へ説明を行っている。身体拘束防止委員会を立ち上げ随時拘束をしない方向で検討している。身体拘束があった場合は、経過観察・心身状況を身体拘束経過記録を行っている。	身体拘束委員会により3ヶ月に1回検討している。内部研修も年1回指針に沿った取り組みを行っている。骨折により医師から1ヶ月の安静の指示があり、ベットからのずれ落ち経験から家族と検討した結果4点柵の同意を頂き使用したこともあるが、記録し定期的に検討している。安否確認のため足センサーを半数弱の利用者が使用しているが常に見直しを行っている。	

ヒューマンヘリテージ安源寺・EASTユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で勉強会を開き、職員も理解している。虐待防止委員会を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長、管理者は、外部の権利擁護の研修に参加し学んだことを、職員に伝えている。また、内部研修として判断能力が不十分な場合であっても、自分らしく生きることの継続をサポートしていくことを理解し考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には、文書で示し口頭で説明している。不安な点、不安な事、疑問な事がなければ確認し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事(敬老会、クリスマス会)で家族に参加して頂いている。家族が面会に来られた時に、日頃の様子を伝え要望等がないか確認している。家族からの声は会議で話し合いケアやサービスに活かしている。	殆どの利用者は意見・要望を伝えることが出来、日々過ごし方などをお聞きし希望に沿えるよう支援している。毎日見える家族もおり面会時に日々の様子をお伝えしている。ホーム便り「安源寺日和」には、1ヶ月の利用者の様子が分かるよう写真やコメント、次月の予定などが掲載され毎月家族に送られている。家族への個々のお便りも検討中である。遠方の家族にもお預かり金の報告をし、年2~3回は来訪していただいている。敬老会・クリスマス会には半数の家族の参加があり、来訪時に意見や要望をお聞きしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝の申し送り時、ミニカンファレンスを行うことが多い。月1回の全体会議は法人代表者が出席することもあり伝達事項、カンファレンス、勉強会などに充てている。年に1~2回本部人事担当者によるメンタル面の面談と職員自身が作成した自己評価を基にした個別面談があり、職員が意見や要望を言う機会が設けられている。	朝の申し送り時に意見や要望を聞きケアに活かしている。月1回の全体会議では年間計画により研修も行い、法人代表も講師を担当するなど職員と意見交換している。法人の人事担当者との個人面談もあり、職員が個々に要望を伝える機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事務方に職場環境、処遇状況整備担当者を設けて、定期的に見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回 社内研修、管理者研修等で職員の理念意識、実務の力量、自己啓発チェックを行っている。管理者、主任、職員4名は認知症介護実践者研修を受講しており、今年度は一人が受講し終了、一人が終了予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市事例検討会や介護支援専門員連絡会に出席し他の事業所の困難事例の検討や研修に参加している。また、職員がキャラバンメイトとして、他の事業所の方と認知症サポーター養成講座を開催して、市民に認知症について理解して頂くように支援している。地域の交流会、なっちょ隊、オレンジカフェを通して、他の事業所との交流も深めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家人から情報をいただき、本人の生活スタイルや困った事に寄り添えるよう支援につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家人から心配事や希望・大切にしたい事などお聞きし、いつでも相談出来るように声掛け雰囲気作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意思を確認し、その方にあったサービスを紹介したり、相談に乗っている。必要と思った場合は、他のサービス利用も紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりを家族のように思い接している。ここは、自宅ではないが、自宅のように出来ることはやっけていただき自分の持つ力を発揮するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係を大切にし、昔の生活経験、習慣を尊重し趣味等をここでも続けていけるよう支援している。ご家族の気持ちを大切に、ご家族と相談しながら、ここで安心して生きがいを持って暮らして頂けるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が行きたい場所、会いたい人の気持ちを大切にしながら、希望に添えるように支援している。床屋やお店、スーパー、市内公共施設、食堂など馴染みの場所へ行かれるように支援している。近所の方や親戚の方と連絡を取り合い面会に来られたり、こちらから出向くこともある。	市からのタクシー補助券を使用し、ジャンボタクシーで利用者全員が年3回外出し、バラ公園、花見、買い物や外食を楽しんでいる。近所の方、親戚、友人の来訪もあり利用者と一緒に過ごして頂いている。家族と馴染みの美容室に行かれる方もいる。居室に電話を引いている方が数名おり、自由に電話でお話している。年賀状の作成も計画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、雰囲気作り、仲間作り、会話作りができるように支援している。行事やレクリエーション等にも職員が入り、利用者同士が関わりをもてるように支援している。食事の席にも利用者同士が良い関係でいられるように支援している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族の方、ご本人が訪問しやすいように努めている。退去後もその後の状況把握に努めるように、連絡を取り合っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い、気持ち、意向を1番に考え、希望や意向に沿った個別支援をしている。困難な場合はご家族や職員でよく話し合い考えている。	殆どの利用者は思いや意向を伝えることができる。日々、過ごし方をお聞きし、広告で箱折、針仕事で雑巾縫いや布団の襟布付け、洋服のつくりなどをして頂いている。月1回訪問リハビリの来訪があり、助言により、リハビリ計画としてワンコインを持ち2ヶ月に1回買い物外出することを組み込み支援している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴、生活環境、入居までの経緯等、アセスメントを通して把握するよう努めている。自宅にいたころのサービス利用事業所の方やケアマネージャーと連携を取り情報収集し把握するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を、個別に見守りを行い、どのように過ごされているか？異変はなかったか？等記録をノートに残し、一人ひとりの過ごし方を把握できるように努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員による利用者の担当制をとっており、アセスメントや評価など担当職員が行っている。カンファレンスを行い、その結果をもとに介護計画書を作成しご家族に説明し同意を得ている。計画の期間は短期3～6ヶ月、長期1件としている。年1度は、利用者、家族、看護師、担当職員、計画作成担当で「担当者会議」を開催し、プランに活かしている。	職員は、利用者3名を担当しており、モニタリングを行い、カンファレンスで介護計画の見直しを行っている。利用者の状態によって異なるが、基本的に短期目標は3～6ヶ月、長期目標は6ヶ月から1年を目安としている。入居されて間もない場合には、様子を見ながら1ヶ月で見直すこともある。見直す時には利用者・家族の希望をお聞きしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを利用し、職員間で送りノートや業務日誌・夜間日誌で情報共有している。介護計画に沿ったケアが出来ているか？毎日の個別記録に記入している。意向に沿ったケアが出来ているか？無理はないか？等、職員間で話し合い実践につなげたり介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から相談・要望があれば、出来るだけ意向にそえるように対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理髪店、美容院に散髪に出掛けたり、本人の希望で近くの馴染みの洋品店やスーパーに買い物に行き資源の活用に心がけている。市立図書館や中野市内の博物館や資料館へ出かけることもある。地域行事の参加やボランティアの受け入れを積極的に取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医をどうするか話し合いで決めている。協力医への受診の付き添いは看護師、管理者が行っている。家族付き添いの時は健康管理表、連絡帳を活用している。職員として看護師がいる事からケア記録とは別に看護記録が作成され利用者の異変にも早い対応を心掛けている。	利用契約時に協力医があることは説明し希望をお聞きしている。協力医でも日頃の往診は中々難しく、受診には看護師が管理者が付き添い日頃の様子を情報提供している。受診の前と後には家族に連絡し、報告も行っている。1年半前から訪問診療の病院を紹介され、今は数名の方が往診対応となった。3年前から看護師が常駐しており健康管理、医師との連携がスムーズに行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中はほぼ毎日、看護師がケアに携わっている為、情報や気づきを相談し、指示、指導を受けられる体制になっている。夜間や看護師不在の日には、電話で看護師に相談し、本人の希望や看護師の判断で受診する場合は、本人の状態や相談したい内容をまとめ医師との連携をとっている。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と相談、情報交換を行っている。入院中は週に1~2回面会に行き、病棟の医師、看護師、ケースワーカーから状態、経過等を聞くようにしている。退院時に医師からの退院説明にも同席し、本人の状態確認、医師からの指示等を受け対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全体会議で終末ケア等について職員全員で話し合っている。「重度、看取りについての指針」に基づき、契約時にご家族に説明し、終末期状態になった時の確認をしている。早い段階から利用者様、ご家族、主治医、看護師等と話し合い、医療機関に移られたケースもある。訪問診療医師の確保が出来たため、看取り対応の場合は、医師、看護師と連携しチームで支援していくように取り組んでいる。	利用契約時に「看取りの指針」を基にホームでの対応を説明し希望をお聞きしている。訪問診療で数名の方の往診をお願い出来た病院があるが、緊急時の対応は距離もありまだ経験はない。状態により家族・主治医・看護師・管理者で看取りについて話し合い同意を頂くようにしている。全体会議で「終末期、看取り研修」を年1回開き、職員全員で希望に沿えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時には、看護師の指示に従って慌てず対応ができている。会議で急変、事故発生時について話し合いを行い、応急手当、初期対応が出来よう看護師から指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練が行われ消防署立ち合いが1回、夜間想定を1回行っている。地域の方々に日頃から避難する場合は協力してもらえようをお願いしている。非常時に利用者が首にかけ避難するプレートもあり使用出来るように保管されている。土砂災害についても消防と相談や連絡を取っている。備蓄は数週間分保管している。地震・水害の避難計画を作成している。	年2回の内1回は夜間想定で、避難・救出訓練を行っている。地域の協力機関と連携を図り行っている。今回の台風19号では、隣の地区に浸水被害があり、ホームの地区もハザードマップ区域のため市と相談しながら、マニュアルの見直しと共に、備蓄・持ち出し品など災害時の安全確保や体制整備を検討している。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議で個人情報の保護やプライバシー等について、実例をあげながら細かい注意を促すように話し合っている。声掛けにも利用者様の気持ち、思いを損ねないような言葉かけを全職員が行っていくよう話し合い、努めている。接遇研修を年1回開催している。	男性職員がおり、利用者との馴染みの関係づくりがされた上で、確認しながらプライバシーを損ねないようケアに取り組んでいる。利用者への呼び掛けは敬意をもって苗字に「さん」付けでお呼びしている。利用期間が長くなってくると職員も馴れ合いになり易いのでそうならないよう管理者が個々に声掛けすることもある。「プライバシー保護」「接遇マナー」の研修も年1回開かれ、職員の注意を喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を聞けるよう毎日の生活の中で声がけをしたり、様子を伺っている。職員が決めてしまうのではなく、利用者様が自己決定できるような声がけを常に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望に沿った生活をして頂いている。職員側のペースではなく、利用者様一人ひとりのペースを保てるようにしている。利用者様に関わる時は、ゆったり優しくご本人のペースで対応するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が望む時、散髪出来る体制になっている。毎朝、鏡の前で髪をとかしたり髭そりを自分でできるように声をかけている。決まった化粧品を愛用されている方もいる。洋服選びはご本人が選んだり職員と一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにされている方も多いため、彩りよく、季節に合ったメニューにしている。食事の準備、下ごしらえ、片付け等利用者様の方と一緒に出来るように支援している。利用者によっては食器を軽いものに変えたり刻みやミキサー食に対応し食事が楽しく食べられるように工夫している。	一部介助の方が若干名で、その他の多くの方は自力で食事ができている。食形態も刻みとミキサー食の方で三分の一強あり、あとは常食としている。食材配達業者から1食あたり2品を選択し2週間前に発注し、3品目は野菜の下ごしらえなど利用者にお手伝いいただきホームで調理している。敷地内の畑の野菜の収穫祭も楽しんでいる。誕生日にはおやつにケーキでお祝いし、季節の行事メニューも楽しんでいる。希望により外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせて、盛り付け量や水分量を調整している。食事制限のある方には、代替りのものを付けるなど対応している。お茶やコーヒー、牛乳等好きな時に飲めるように対応している。1日の食事量・水分量の記録を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、見守り、介助を行い、歯磨きのチェックをしている。磨き残しがあるため、仕上げ磨きを職員がしている方もいる。義歯の方は夜、お預かりし週2回消毒を行っている。週1回、歯科医、歯科衛生士が訪問診察に訪れるため、異変があった場合はすぐ相談し診察できる体制になっている。		

ヒューマンヘリテージ安源寺・EASTユニット

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を原則としている。排泄表をつけて個々の排泄パターンを把握している。布パンツの方もリハビリパンツ使用の方も個々の時間で声がけトイレ誘導を行っている。個人の状態でポータブルトイレを使用する利用者もいる。	布パンツの方が数人で、後の方はリハビリパンツとパットを使用しており、預り金から支出し報告している。介護度3以上の方は市からオムツ券が出ており、利用しながらなるべくトイレでの排泄を大切に個人負担の軽減に繋がるよう支援している。夜間ポータブルトイレ使用の方が三分の一強おり、昼間も使用している方が若干名いる。1ユニットについては居室にトイレがあり、排便があった時にコールされる利用者もあり、自立への支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事で果物や乳製品も摂取していたが、便秘にならないように支援している。体操や散歩等で身体を動かして頂くように努めている。排泄表を確認し排便をコントロールしている。看護師が必要な時に、医師の指示のもと排便や洗腸を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、希望より週3回の方もいる。入浴の声がけをし、一人ひとりの希望やタイミングに合わせている。利用者様によっては職員が2人体制で介助している。介助が必要でない方にも万が一に備えそっと見守りしている。季節に沿った入浴、菖蒲湯、ゆず湯、バラ湯、りんご湯も楽しんで歌をうたったり昔話、世間話等される。	午前と午後入浴可能となっており、基本的に週2回の入浴としている。声掛けを変えたり、時間をずらしたりしているがなかなか入浴をしない方がおり、無理強いないようにしている。菖蒲湯・ゆず湯・バラ湯・りんご湯など季節が感じられるようにし、入浴剤も楽しんでいる。市内の日帰り温泉に行くこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの気持ちに合わせた自由な生活を心がけている。昼間は身体を動かす事、夜間は良眠して頂くように支援している。自分のペースで起床して頂き、遅めの朝食になることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の処方箋を個人ファイルにはさみ、職員がいつでも見ることができ、薬の内容や副作用などについて把握出来るようになっている。看護師が仕分けし飲み忘れのないようにしている。個々の状態に合わせて、飲みこぼし防止のため、服薬ゼリーを使用されている方もいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、趣味、職業等を聞き、ホームでも続けていけるような事を職員で話し合い支援している。外出や買い物が好きな利用者様が多いので、お出掛けの機会を多く持ち、楽しみや気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩、日向ぼっこをし周りの風景と空気で季節を感じて頂いている。年間外出行事計画を立て季節に合わせた行楽地へ出掛けている。(オレンジカフェに参加したり、地域の方もボランティアとして参加している)個々に利用者様の食べたい物を聞きながら外食にも出掛けている。本人の希望でスーパーやお茶屋さんに出掛けたりするなどの外出支援を行っている。	普段車いすを使用する方が三分の一、外出時のみ車いすを使用する方も三分の二、歩行者の方は若干名となっており、天気や体調に配慮しながらホーム近辺を散歩している。お花見・バラ公園・ドライブイン等、年3回は全員で市のタクシー券などを利用しジャンボタクシーで外出し外食も楽しんでいる。小学校の運動会・音楽会、中学校の「手をつなぐ会」の見学、紅葉狩り、買い物外出など日頃から外に出ること掛け支援している。月1回来訪する作業療法士からの助言で外出もリハビリとして介護計画に盛り込み、ワンコインを持って買い物外出し思い思いに買い物を楽しまれている。	

ヒューマンヘリテージ安源寺・EASTユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は、自身で管理して頂き、希望や力量に応じ支援している。管理が難しい方はご家族よりお預かりしたお金を、金銭出納帳に記入・管理を行い、定期的にご家族に確認して頂いている。お預かりしたお金から金額を決め職員の付き添いで本人の欲しい物を買出し掛り本人が支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置されている方もいる。電話の取り次ぎや借りたい希望がある方は、希望に沿える対応をしている。届いた郵便物は利用者様にお渡ししている。ハガキや手紙を出したく本人が書けない場合は、代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オールバリアフリーで、食堂・居間・廊下には、柔らかな照明のもと安全性に優れている。居間には季節によって羽子板、ひな人形、五月人形、クリスマスツリー等飾り付けで季節感を取り入れている。	玄関から左右に二つのユニットが分かれている。玄関には利用者の作品で干支の土人形や自宅庭から収穫して来た花梨が置かれ季節感をもし出している。お風呂もユニット毎に工夫され利用者に合わせて利用している。廊下も広く利用者の外出や行事などを楽しまれている写真が沢山飾られている。各リビングは広々しており行事が賑やかに行われることが感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂は利用者様が気軽に座り、お茶を飲んだり会話を楽しめる環境、雰囲気を作り出している。居間にはテーブルやソファを置き、利用者様が自由に新聞やテレビを見て過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、利用者様の馴染みの物や、使い慣れたものを自由に持ってきて頂いている。敬老会の感謝状や写真などを飾り、整理整頓も利用者様と一緒にしている。	エアコン・ベット・クローゼット・広い洗面台が設置されている。個々に馴染みの筆筒、仏壇、テレビなど自由に持ち込まれている。ハンガーラックには沢山の洋服が掛けられ、毎日着るものを選ぶことを楽しみにされている様子がうかがえた。家族の写真も飾られ居心地よく過ごせるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札や張り紙がありわかるように工夫している。掛け時計の位置を低くして見えやすい高さになっている。その人に合うよう、高さの違う机を使用している。		